

## 2019年度入試状況総括

2019年度の獨協大学入学志願者数が確定した。一般入試(センター利用入試を含む)の志願者総数は24,964名(前年度比106.3%)、前年度の23,485名から1,479名増加した。昨年12月に実施した推薦、卒業生子女・弟妹、特別、社会人入試の志願者数は1,093名(前年度1,103名)で、一般入試と合計した志願者総数は26,057名(前年度24,588名)となった。志願者増の要因としては、受験生の安定志向から出願校数を増やす傾向が見られることもあるが、すべての入試においてインターネット出願への一本化、複数出願による検定料割引、出願締切日の延長等、本学が受験生の視点に立った積極的な入試改革を継続的に実施していることが大きいと考えられる。

児嶋一男入試部長は、「進学相談会、模擬授業、高校訪問など一年を通じて続けてきた結果が、今年もまた志願者増となった大きな要因だと思っています。すでに2020年度入試に向けたさまざまな広報活動は始まっていますが、入試広報には獨協大学の魅力を再確認するという楽しい面がたくさんあります。『獨協のここ、いいよ』を多くの人に伝えられる、そんな楽しい活動に在学生の皆さんも関わってくださると嬉しいですね」と語っている。



2018年に行われたオープンキャンパスの様子

## 在学生が草加市内の企業PR動画を制作

在学生が草加市内の企業をPRするための動画を制作し、2月15日、西棟で発表会が行われた。

これは、本学の学生が市内企業の魅力を再発見し、内外に発信することで地域産業の活性化につなげようと「そうか産学行連携事業推進委員会」(草加商工会議所、草加市、獨協大学)が企画したもの。8グループ、18名の学生が市内の企業8社を取材し、動画をまとめ上げた。

この日、学生は取材対象となった協力企業の代表者らを前に動画を披露した。自社の動画を見た企業代表者からは「学生の視点で、会社の魅力をよくまとめてもらった」との感想が寄せられた。発表会の後には交流会が行われ、学生に参加賞と感謝状が贈られた。

動画はYouTubeや各企業ホームページなどでの配信を予定している。



プレゼンテーションの後に動画を披露



協力企業の代表者からも好評だった

## 2019年度 学部の授業時間の変更について

獨協大学は、2019年4月より学部の授業について1学期間の授業を90分15回から100分14回に変更する。これにより、学生の学修時間が確保され、現状よりも自由度が高く多様な形態の授業を実施することが可能となる。

本学は、この度の100分授業への移行が単なる授業時間の延長にとどまらず、授業内容の質的向上を図り、本学の「教育力」をさらに高める契機となるよう、今後も教育改革を推進していく。

1時限	9:00~10:40
2時限	10:55~12:35
3時限	13:35~15:15
4時限	15:30~17:10
5時限	17:20~19:00



## オープンカレッジ特別講座「少数民族の世界」開催

3月9日、オープンカレッジ特別講座「少数民族の世界 一文化について知る、考えるー」(エクステンションセンター主催、草加市共催)が天野貞祐記念館大講堂で行われ、約270人が来場した。講師は国際教養学部松岡格准教授。15年間の中国でのフィールドワークをもとに、少数民族の文化について講演した。中国には56の民族が存在し、総人口約13億人のうち1億人が少数民族であることや、スライドやステージ上の民族衣装を紹介しながら、彝族やジンポー族の食や言語、祭りについて説明した。また、日本人の食文化の中でも彝族には受け入れ難い桜肉などを例に挙げ、習慣や文化の違いを知り、理解することの重要性、ひいては私たちが「自身の物差し」で見ていることを意識することの大切さを述べた。来場者からは、「知らない世界の扉が開けられたように思った。中国に対する見方が広がった」との感想が聞かれた。

